

# 令和7年度 なりひら高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室 事業計画

## 第9期日常生活圏域別地域包括ケア計画 目指すべき将来像

—これからもずっと支えあいのまち 錦糸・太平・横川・業平—

昔から脈々と続く、住民同士が支えあうことが当たり前という意識が強い地域です。健康意識が高く、地域のために貢献したいとの思いも強い高齢者がいきいきと生活を送っている地域であると言えます。このような意識が子や孫の時代にも継承され、願わくは更なる進化を遂げていこう、なりひら圏域では地域の住民、医療・介護をはじめとする関係者とともに、地域包括ケアシステムの構築を進めていきます。

人口	高齢者人口	高齢化率	後期高齢者人口	高齢者人口に対する 後期高齢者人口
35,387 人	6,975 人	19.7%	4,007 人	57.4%

令和7年2月1日現在

### <全センター・相談室共通業務>

#### 1 総合相談支援

7年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○総合相談の傾向を理解し、相談が増加している分野についての対応力を向上させ、相談者が必要な時に適切に社会資源を選択できるよう情報提供を行う。</li> <li>○相談に対して、早期対応ができるよう多職種により多角的視点でアセスメントする。</li> <li>○複雑化する問題に対応できるよう、介護分野だけでなく、障害、医療、福祉等、多様な機関と連携を図り、多問題ケースに対応する。</li> <li>○地域活動や実態把握、広報紙等様々な媒体や機会を活用して、センター・相談室の機能を伝え利用者認知度の向上を図る。</li> </ul>			
結果	新規相談件数	件（前年度 ○件）	継続相談件数	件（前年度 ○件）

#### 2 権利擁護

7年度の 取組の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○虐待防止ネットワーク <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙、みまもりだより、啓発チラシ、相談室の全数訪問時の相談窓口周知のチラシの配布などを通じて、センター・相談室を周知する。</li> <li>・町会、見守りグループ、自主グループを含む地域住民、サービス事業所・関係機関等に、虐待防止、成年後見制度、消費者被害や特殊詐欺被害防止等の普及啓発活動を行うことを通じ、センター・相談室に相談しやすい体制をつくる。</li> <li>・個別事案対応や危機管理情報連絡票の活用等を通じ、関連機関との連携を図っていく。</li> </ul> </li> <li>○権利擁護相談 <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の適切な意思決定を支援する。権利侵害の早期回復に向け、関係機関と連携し早期に介入し対応していく。</li> </ul> </li> </ul>			
結果	虐待防止ネットワーク（研修、講座等）	○件 （前年度 ○件）	権利擁護相談（虐待相談含む）	件数 ○件 （前年度 ○件）

### 3 包括的・継続的ケアマネジメント支援

7年度の取組の視点	<p>○主任介護支援専門員連絡会、ケアマネジャーを対象とした研修会・事例検討会、地域ケア個別会議等を通じて地域課題を抽出し、ケアマネジャーが抱える様々な課題を関係機関と連携し検討・解決に向けて支援する。</p> <p>○ケアマネジャーを対象とした研修会・事例検討会では、関係機関・事業所等との協働で実施し、学びの機会に加えてネットワーク強化の機会とする。</p> <p>○ケアマネジャー同士や居宅介護支援事業所間でのつながりの機会を作り、地域のケアマネジャーと協働して地域課題を捉え、地域包括ケアシステムが機能するよう地域情報の提供、多職種との連携強化を進めていく。</p>	
結果	ケアマネジャー向け研修 ○回（前年度 ○回）	事例検討会 ○件（前年度 ○件）

### 4 一般介護予防事業（※介護予防普及啓発事業、地域介護予防活動支援事業、地域リハビリテーション活動支援事業等）

7年度の取組の視点	<p>○昨年度の送迎付き体力測定会を実施した際に移動に関するニーズが高いことがわかったため、今年度も継続的に実施していき、移動支援のニーズ、実態の把握をする。</p> <p>○地域で行っている活動を把握し、フレイル予防に興味関心が持てるように広報紙を作成し、定期的にもまもりだより、LINE、地域の掲示板や回覧板にて情報を発信する。</p> <p>○昨年度の体力測定会の結果と基本チェックリストの結果から、今年度は再評価を目的とした体力測定会の実施や、該当するフレイル予防に繋がる講話の周知を行う。</p> <p>○地域のリハビリテーション職員や医療専門職と連携し、体力測定会の結果から地域住民に専門的なフォローアップ講座を実施する。</p> <p>○通いの場でのポピュレーションアプローチの周知・活用を行う。</p>	
結果	住民主体の通いの場の数 ○件（前年度 ○件）	

### 5 介護予防支援・介護予防ケアマネジメント

7年度の取組の視点	<p>○介護予防サービスのみならず、インフォーマルサービスや地域活動など多様な社会資源を活用したプランを作成し、利用者の社会参加を促す。</p> <p>○生活支援コーディネーターやみまもり相談室と連携し、ケアマネジャー等に地域の社会資源情報を提供し活用を促す。</p> <p>○居宅介護支援事業所に地域ケア個別会議への積極的な参加を促していく。</p>	
結果	プラン件数（自己作成） ○件（前年度 ○件）	プラン件数（委託） ○件（前年度 ○件）

### 6 認知症支援

7年度の取組の視点	<p>○認知症理解の促進や相談の場・社会資源等の情報周知、自分や家族の将来のための意思決定につなげられるような講座を開催する。開催にあたっては認知症をさまざまな視点から多角的にとらえられるよう、関係機関・専門職と協働して実施する。</p>
-----------	---

	○ “誰もが必要なり得る”ことを前提に住み慣れた地域で希望を持って生きられる、という新しい認知症観の拡がりを目指して、普及啓発活動に取り組む。	
結果	認知症サポーター数 人（前年度 ○人）	家族介護者教室 回（前年度 ○回）

## 7 地域ケア会議

7年度の取組の視点	<p>○地域住民および関係機関に地域包括ケア計画を周知し、地域ケア推進会議等において各推進事業の目的を共有し、目標を達成するための具体策を検討する。</p> <p>○地域ケア個別ケア会議で地域住民、関係機関、専門職等の検討を通して地域課題の発見や抽出を行い、それらの課題について地域ケア推進会議にて共有し、地域住民、多職種、関係機関と具体策を検討して一緒に取り組んでいく。</p>	
結果	地域ケア個別会議 ○回（前年度 ○回）	地域ケア推進会議 ○回（前年度 ○回）

## 8 生活支援体制整備事業

7年度の取組の視点	<p>○地域の活動に足を運び、地域の活動状況の把握し、日ごろから顔の見える関係を作ることでネットワーク強化を図り、地域住民、関係機関や相談室と連携して地域の社会資源情報を把握し、適宜情報を発信していく。</p> <p>○センター・相談室全体で地域のニーズを把握し、ニーズに応じて地域住民との活動の場の立ち上げ支援を行う。</p>	
結果	交流・通いの場 ○件（前年度 ○件）	

## 9 見守りネットワーク事業

7年度の取組の視点	<p>○実態把握については年間 600 件以上を行う。その中でも健康状態不明者、独居の方で社会的孤立リスクの高い高齢者を中心に把握する。センター・相談室の相談窓口としての機能を知ってもらい、社会とのつながりが持てるよう継続的に支援していく。</p> <p>○地域住民・民生委員のニーズをふまえた活動をしながらみまもりネットワークを強化し、早期発見・早期対応、安否確認などができる体制づくりをしていき、みまもりネットワークの充実につなげていく。</p> <p>○みまもりだよりの配布、センターで作成したリーフレット、チラシ等の配布を通じて、前期高齢者には早い段階から相談窓口としての機能を訪問、ポスティング等で周知し、センター・相談室の認知度をあげていく。</p> <p>○圏域内の民間事業者へ、すみだ高齢者見守りネットワーク事業の周知を行い、ネットワークの強化を図る。</p> <p>○みまもり協力員との連携強化・研修等を通じて、みまもり力向上を図る。</p>	
結果	実態把握 ○件（前年度 ○件）	安否確認 ○件（前年度 ○件）

<b>取組名 身近な場所でつながれる地域づくり</b>		目指すべき姿：必要に応じて生活支援サービスなどを利用しつつ社会参加して支え合っている
<b>背景となる現況・課題</b>		<p>新型コロナウイルス感染症拡大のため、これまで町会、老人クラブ等地域活動の多くが中止となった。地域ケア会議の中でも、活動の場を通して孤立や状態変化のリスクのある方を早期に把握することができるなど、活動の場が見守りにもつながっていたことや、高齢者が気軽に集まれる場所が少なく、住民同士の交流や健康作りのためにも身近に参加できる場所作りが必要である等の意見があった。</p> <p>また、地域活動の中止により高齢者の活動量が低下し、不活性化の状態が進行している現状がある。活動量の低下が続くと筋力・体力低下のフレイルを助長させる。フレイルの進行を防ぐためには、コロナ禍以前のように地域活動へ参加することが望ましく、多職種の多角的な視点が加わることが効果的である。ニーズ調査では、地域活動へ参加していない方のうち、「関心が無い」が32.6%、「どのような活動があるか知らない」が18.9%であった。地域活動に関心を持ってもらうため、健康寿命の延伸やフレイル予防への理解を深め、自身の身体機能の現状を知るための活動の情報発信が必要である。</p>
<b>計画策定段階の前年度の事業実績</b>		<p>○フレイル予防等に関する講座の開催数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポピュレーションアプローチ 5回（内一体的実施 3回）参加者計 35名</li> <li>・地域リハビリテーション活動支援事業による講話 4回 参加者計 97名</li> </ul> <p>○実態把握時と、5月号のみまもりだよりに体力測定会の年間スケジュールを記載し周知を行った。町会や自主グループに声かけし、体力測定会を実施した。太平・錦糸の町会には送迎付きで実施し今まで体力測定会に参加したことない方も参加することが出来た方が 24名。</p> <p>○8月は猛暑のためなりひら体操は夏休みとし、「夏休み元気体操」体操メニューを作成・配布した。自宅で過ごす時間が長くなってしまい運動機能の低下予防として自主トレーニングの推奨を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なりひらホーム測定会（4月・6月・8月・10月・1月・2月）</li> <li>・町会、自主グループへの出張体力測定 5回</li> <li>・送迎付きの体力測定 3回</li> <li>・計参加者 115名内アンケート回収 83名</li> </ul> <p>※みまもりだよりやチラシなどの広報から測定会に繋がった方 13名</p> <p>○なりひらホーム体操 LINE グループでの情報発信 13回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配信内容は、各講話のお知らせや体力測定会の案内、体操のスケジュールなど。</li> </ul> <p>○介護予防に関する地域ケア会議の開催数 2回</p>
<b>第9期計画における目的</b>		地域の高齢者がフレイル予防の理解を深めながら地域活動に関心が持て、高齢者自らが活動に取り組める。
<b>令和7年度の取組の指標と方向性</b>	<b>目標</b>	地域の高齢者が、住み慣れた地域での活動に興味関心を持って参加をし、フレイル予防を継続することができる。
	<b>投入資源</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民</li> <li>○なりひらホーム地域交流スペースや各町会集会場など</li> <li>○区報やみまもりだより、LINE</li> <li>○センター・相談室職員、生活支援コーディネーター、地域リハビリテーション活動支援事業担当専門職、医療職など</li> </ul>
	<b>活動計画</b>	○送迎付きの体力測定会の実施と、再測定者のみの測定会の実施や、該当するフレイル予防に繋がる講話の実施と、参加の呼びかけ。

		○地域活動の把握と、情報を適宜みまもりだよりや LINE を活用し発信。 ○地域の町会活動や自主グループの活動支援。
	アウトプット 指標	○体力測定会、通いの場のポピュレーションアプローチ、フレイル予防等に関する講座の開催数、参加者数、アンケート ○LINE での情報配信数・みまもりだよりへのチラシを同封した回数・フォローアップの実施数・自主グループ新規参加者数 ○介護予防に関する地域ケア会議の開催数、アンケート
	アウトカム 指標	○体力測定結果と基本チェックリストからフレイル、プレフレイル該当者の抽出と再測定者の変化から、フォローアップにつなげた人の把握。○体操参加者名簿から新規体操参加者の把握。 ○みまもりだよりや SNS、LINE による周知・発信を行い、ポピュレーションアプローチ・講座・講話等の参加者数を把握し、各アンケート結果による理解度とセルフチェック表の配布と実施状況をから行動の変化があったか集計する。
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果（成果 指標を用いた 目標の達成 状況）	
	備考	

<b>取組名</b> 我が家で暮らし続けられるしくみを知ろう	目指すべき姿：切れ目のない円滑な医療・介護連携により必要な在宅療養を受けている
背景となる現況・課題	<p>地域ケア会議の中で地域の高齢者から「医療・介護専門職に気軽に質問・相談できる機会が少ない」「在宅医療・介護が必要になるまでサービスを知る機会が少ない」、在宅医療・介護関係者から「地域の高齢者に直接サービス内容を伝える機会が少ない」という声があった。ニーズ調査では、今後介護が必要になった際の生活場所として、「現在の住宅に住み続けたい」は 43.7%、「在宅療養を希望する」は 50.6%に及ぶ反面、「在宅療養の実現が可能だと思う」は 31.9%にとどまり、在宅で療養したいが実現できないと思う人がいる。</p> <p>8 期の取組で在宅での看取りが特別なものではないことを普及啓発してきたがそれでもなお、地域の高齢者やその家族に在宅療養に関する情報について（在宅医療、介護保険制度、その他のサービスの内容や利用方法など）が行き届いておらず、どうすれば実現できるか、どのような内容で実現したいかを考えるに至っていないことが考えられる。そこで、地域の高齢者が、訪問診療等の医療・介護サービスを受けながら在宅で安心して療養・生活できることを知り、どのように在宅療養をしていきたいか考えるきっかけづくりが必要であるとする。</p>
計画策定段階の 前年度の事業実績	<p>介護保険勉強会、福祉用具展示会、在宅療養セミナー、もしバナゲーム体験会、配食・栄養講座を開催。</p> <p>介護保険勉強会では、具体的に聞きたいことを募り、介護保険サービスの使い方等病気で要介護状態になっても我が家で暮らすを支える仕組みがあることを伝えた。</p> <p>福祉用具展示会では、参加者が実際に福祉用具に触れて、福祉用具専門相談員に直接質問できる機会を持ち我が家で暮らすを支える仕組みへの理解を高めた。</p> <p>在宅療養セミナーでは、圏域内の訪問診療医師、訪問看護、看護小規模多機能型居宅介護支援の職員が講師となり、実際に在宅療養をされた方の事例を通じて、訪問診療と看護</p>

		<p>小規模多機能サービスについて具体的に情報提供した。身体状態の変化に応じて、外来から訪問診療への切り替え、通いサービスから訪問介護サービスの切り替えを経て自宅での看取りとエンゼルケアができたことを紹介した。</p> <p>もしバナゲーム体験会は、ACP のきっかけづくりとして実施した。参加者からは、「内容的に知人とあまり話したくない、見知らぬ人と話すのも抵抗がある…」とネガティブな意見が多く見られた。ACP の普及活動の際には、プライバシーへの配慮・工夫が重要と考えられた。</p> <p>配食・栄養講座は、前半は配食サービス事業者を講師に招き、多様な食形態を実際に試していただける試食会形式で実施し、高齢者配食みまもりサービス事業を紹介した。安否確認・見守りとしての重要性を発信し、異変があった際にすぐに気づける見守りがあることも我が家での暮らしを支える仕組みという理解を高めた。後半は、管理栄養士が食べるための機能低下防止と食事の工夫による低栄養予防について解説した。これまで通り我が家で望む暮らしを続けるためには、介護予防の観点から日常の食生活を見直すことも重要であるとの理解を高めた。</p>
第9期計画における目的		高齢者が、どのように暮らしていきたいのかを主体的に考え、必要な時に自宅で受けられる医療・介護サービスを利用できる。
令和7年度の取組の指標と方向性	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自宅で受けられる医療・介護サービス・住宅環境整備事業などについて知り、我が家での暮らしを支える仕組みへの理解を高める。</li> <li>○自分の持病・住環境・希望から、どのように暮らし、医療、介護などの支援を受けていきたいかを予め考え備える機会を作る。</li> </ul>
	投入資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民、医療・介護の専門職</li> <li>○なりひらホーム地域交流スペースや各町会集会場など</li> <li>○区報やみまもりだより、LINE</li> <li>○センター・相談室職員、生活支援コーディネーター</li> </ul>
	活動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在宅での暮らしを支える仕組みについて、地域住民の興味関心や困りごとに沿う内容をわかりやすく理解を深めていける講座を開催</li> <li>○在宅の暮らしや介護サービスに関する意思決定について、段階的に情報を知り理解を深め考えていくことができるよう講座を開催</li> <li>○在宅での暮らしに関わる専門職の意見交換会の開催</li> <li>○講座や意見交換会について、広報誌等で情報発信</li> </ul>
	アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講座の開催数、参加者数、アンケート</li> <li>○在宅での暮らしに関わる専門職の意見交換会の開催数、参加者数、アンケート</li> <li>○広報誌等の配布数</li> </ul>
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民の在宅サービスの理解度、地域住民が在宅で暮らす将来像を自分事としてとらえて主体的に考える変化が起きた人の割合</li> <li>○地域住民が在宅での暮らしの継続を考えるために必要な情報や資源ニーズ、課題</li> <li>○講座の新規参加者数を把握する。</li> </ul>
実施結果	活動の実績 (アウトプット)	
	成果（成果指標を用いた目標の達成状況）	
備考		

<b>取組名 必要な情報がわかりやすい地域</b>		目指すべき姿：必要に応じて生活支援サービスなどを利用しつつ社会参加して支え合っている
背景となる現況・課題		<p>地域ケア会議の中で、「介護保険サービスや高齢者施策等について、どこに相談したらよいかわからない」といった声があった。ニーズ調査ではセンター・相談室について、「知っているが相談したことはない」が50.9%、「はじめて知った」が28.8%でした。センター・相談室の周知を図り、センターをはじめ地域の関係機関や専門職とつながる機会を持ち、相談しやすく、身近な場所で相談等ができる環境を作る必要がある。</p> <p>また、コロナ禍による活動制限が緩和されて地域活動等が再開される中、ニーズ調査の中で地域活動へ参加していない理由として「どのような活動があるか知らない」が18.9%おり、地域の情報が十分に届いていない現状がある。</p>
計画策定段階の前年度の事業実績		<p>実態把握や地域の集いの場への参加等を通してセンター・相談室の相談窓口としての機能の周知を図った。</p> <p>また、社会資源や情報について知り、専門職に直接相談できる機会として防災・減災セミナー、福祉用具機器展、健康講座と配食体験、詐欺防止講座、消費者センターによる講座の開催や、地域からの要望により介護保険勉強会を実施した。</p> <p>地域活動については、ホームページやLINEの活用に加え、新たに運動の場のリーフレットを作成し配布を行った。</p> <p>墨田区デジタルデバイド解消事業のみんなでチャレンジ（みんなでチャレンジ：スマホ利用活用の習慣化を促すアプリでのスマホ交流会）に自主グループの協力を得て参加した。</p>
第9期計画における目的		高齢者が多様な形で社会資源や地域の情報を活用できる。
令和7年度の取組の指標と方向性	目標	高齢者が身近な場所で相談ができ、地域の関係機関や専門職とつながる機会が増える。 高齢者が活動に参加し、地域とのつながりを持てる。
	投入資源	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民、地域活動団体、関係機関</li> <li>○なりひらホーム地域交流スペースや地域の公共スペース、集会所など</li> <li>○みまもりだより、なりひらだより、ホームページ、SNS など</li> <li>○センター・相談室職員、生活支援コーディネーター</li> </ul>
	活動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○実態把握、地域活動を通して、センター・相談室の機能を周知する</li> <li>○センター・相談室の広報紙、地域活動や社会資源リーフレット等の作成、更新、配布</li> <li>○地域住民のニーズアンケートおよびニーズに合わせた、講座、セミナーの開催</li> <li>○SNSの活用による、情報発信、活用促進</li> </ul>
	アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域住民向け講座・セミナーの開催数、参加者数、アンケート</li> <li>○町会、老人クラブ向け、出張セミナーの開催、参加者数、アンケート</li> <li>○センター・相談室の広報紙、地域活動や社会資源がわかるリーフレットの作成・更新・配布数</li> <li>○SNSによる情報発信数、活用事例</li> </ul>
	アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○講座・セミナーのアンケート結果（理解度、満足度）活用事例</li> <li>○活動や関係機関につながった事例と効果のヒアリング</li> </ul>
実施結果	活動の実績（アウトプット）	
	成果（成果指標を用いた目標の達成状況）	
備考		